

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「協働教育事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

「子どもたちの抱えるいじめ、不登校、学力や体力の低下等の諸問題の解決」並びに「生きる力をはぐくむ教育活動の充実・改善」という課題解決に向けて、「学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働し、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体ではぐくむ協働教育」を推進する。

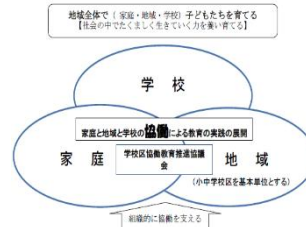
内容

市内すべての小・中・高等学校に、地域と学校の橋渡し役である「学校支援地域コーディネーター」を配置し、各学校の教職員と情報共有を図りながら連携し、学習支援や防災・安全支援など様々な地域学校協働活動を展開している。また、中学校区ごとに地域学校協働本部を設置し、学校支援地域コーディネーターと地域連携担当が参集し、各学校の実践内容や課題を協議している。年間2回開催する地域学校協働活動代表者連絡会議では、市内の学校(地域)で実践している地域学校協働活動の情報の共有を図り、今後の活動推進に向けての協議・検討を行うなど、「学校を核とした地域づくり」に向けて取り組んでいる。



ポイント

- ① 学校支援地域コーディネーターの全校配置
- ② 中学校区地域学校協働活動本部の設置
- ③ 石巻市地域学校協働活動代表者連絡会議の開催



成果

■実績(市内小・中・高等学校:48校)

単位:回

	R3	R4	R5	R6	R7
地域連携事業の実践数	180	180	150	610	1037
実績	183	175	656	1956	2470

令和6年度から、市内すべての小・中・高等学校で協働教育事業を実施しており、地域の特色を生かし、住民と協働した活動が増加傾向にある。中学校区の学校支援地域コーディネーターや地域連携担当が参集しての地域学校協働本部会議、石巻市地域学校協働活動代表者連絡会議などで各校の取組を報告し、課題について検討してきたことが、地域学校協働活動の充実につながっている。

今後の方向性

地域学校協働活動と学校運営協議会との一体的な推進に向けて、学校教育課と既存事業の調整・整備を図る必要がある。各校の教職員や地域住民に、本事業についての理解を図るために、地域学校協働活動の広報活動に努めるとともに、学校又は地域を訪問して目的や概要を説明し、意見交換を行っていく。学校支援地域コーディネーターが活動しやすい環境づくり、持続可能な活動の実施を進めていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動推進事業」(宮城県気仙沼市)

取組の概要や経緯

学校・家庭・地域の協働による学びを通じた地域コミュニティづくりと、地域全体で子供を育てる体制づくりに資するために、地域人材や社会教育関係団体と連携・協働し、公民館を核として「**気仙沼市地域学校協働活動推進事業**」を推進している。



内容

学校・家庭・地域(行政, 社会教育関係団体, NPO, 企業等)の連携・協働により, 子供の学習機会の創出, 幅広い世代との交流, 社会教育資源の活用を活発に行うことで, **子供の深い学び**につなげ, **地域のコミュニティづくり**を推進する。その調整を**地域学校協働活動推進員**が核となり, **公民館担当職員**, **地域連携担当教員**が**連携・協働**して行う。

- ①学校の教育活動への地域住民の参画による支援, 活動内容の充実と深い学び
- ②地域活動への子供の参加・多世代との交流・地域ボランティアの協力
- ③家庭教育支援による子育て世代へのアプローチ, 家庭教育支援チームの活躍



ポイント

- ①**学校運営協議会との一体的推進**を目指し, 地域学校協働活動推進員(公民館担当職員, 地域連携担当教員が連携)が事業の立案, 学校, 関係団体との連絡・調整を行う。
- ②地域活動への参加による**多世代での交流活動**を推進する。(地域ボランティアの確保)
- ③子供や地域人材が**安心して参加できる体制**を整える。(地域内の人のつながり)

成果

- ・講師や地域ボランティアの協力を得て, 事業を実施し, **より地域に根差した深い学びの実現**につながった。
- ・学校運営協議会では, 熟議をとおして学校支援の在り方について検討することができた。
- ・地域住民が地域の子供と関わる機会の創出につながり**地域のコミュニティの活性化**につながっている。

	事業数(回)	参加者数(人)
学校支援	109	5118
地域支援	21	677
家庭支援	25	807
合計	149	6602

今後の方向性

- ・中学校の再編計画が令和9年度から本格化するため, 学校運営協議会との一体的推進の促進, 地域学校協働活動推進員, 公民館担当職員, 地域連携担当教員を核とした協働体制を構築する。
- ・教員の働き方改革を含め, 各学校課題や地域課題, 地域の特性を共有し, それらを生かした活動を推進する。
- ・PTAや各地域の団体などとの連携体制をより一層強化する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「学校を核として」地域・学校・公民館が連携・協働する教育活動 (宮城県名取市)

取組の概要や経緯

子供を取り巻く問題が複雑化・多様化している背景を踏まえ、地域と学校が子供の成長を支えるという同じ目的を持って教育課題に取り組むことを目指してきた。その仕組みとして、小・中・義務教育学校区毎に地域学校協働本部を設置し、地域の実情に合わせた活動が持続的かつ継続的に実施できるようにしている。



内容

令和7年度も、**市内全小・中・義務教育学校区で事業を展開**した。1つの学校区では**公民館がコーディネート機能**を担い、それ以外の学校区では市が委嘱した34名の**地域住民のコーディネーターが地域の実情に合った活動**を行っている。既存の学校支援活動に加え、教育課程の中に地域学習を位置づける学校が増えてきた。また、地域団体や高校、公民館や児童センターと連携した地域活動も盛んに行われるようになってきた。中学校では、キャリア教育を行う際の講師の選定や連絡調整等、運営の一部を協働本部が担うことで教員の負担減にもつながっている。他の学校区でしているよい事業を自らの地域の実態や学校の規模に合わせて取り入れる学校区もみられ、本部同士の相乗効果が見られる。

ポイント

- ①**協働本部と市が委託契約を結び**、市は活動に係る経費を委託料として支払う。
- ②地域コーディネーター、教員、公民館職員を**一堂に会した研修会を実施**。
- ③全小学校区にある公民館が、協働本部・活動の**連携・推進に寄与**。



成果

- ・多くの方に見守られることで、子供たちの学びや体験活動が充実するとともに、安全の確保につながっている。
- ・学校支援に地域住民が参加すること、地域活動に子供が参加することによって地域の活性化につながるとともに、保護者や地域住民の学校に対する理解が深まっている。
- ・子供たちが活動を通して、地域のことに興味をもち、地域行事や公民館のイベントに参加する様子が見られる。

今後の方向性

- ・持続可能な本部運営ができるよう、役員やコーディネーターの育成に努める。
- ・学校運営協議会との連携と役割分担の明確化。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動の取組事例」(宮城県角田市)

取組の概要や経緯

「第2期角田市教育振興基本計画」の基本目標3として、「学校・家庭・地域の連携の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる」とし、「地域学校協働活動」を推進していくこととしている。

内容

- 角田市地域学校協働本部を設置し事業計画、また協働活動の検証及び評価を実施する。
- 「角田市地域学校協働活動ネットワーク会議」の開催
- 地域の教育力を活用した学校教育活動を充実させるために、地域学校協働活動推進員が学校と地域をつなぐ調整役(窓口)となり、以下の事業を実施した。
 - ①学校支援ボランティアの派遣
学校からの支援要請に応じて、ボランティア派遣を実施。(登録ボランティア52名)
 - ・読み聞かせ
 - ・給食指導補助
 - ・ミシン学習補助
 - ・毛筆補助
 - ・戦争講話
 - ②キャリア教育支援(職場体験学習) 協働活動推進員が窓口となり、市内事業所への受入依頼・調整を行い、中学校の職場体験学習を支援した。

ポイント

- ①地域と学校をつなぐ仕組みづくり — 教育委員会が調整役となり、学校の支援要請と地域ボランティアをマッチングすることで、継続的・安定的な協働体制を構築している。
- ②子どもの成長と地域の活性化の両立 — 協働による教育活動を通じて、子ども達のコミュニケーション能力の向上や地域への理解・関心を深め、地域を担う人材を育成するとともに、地域住民の生きがいを推進し、地域の活性化を図る。

成果

- 学校支援ボランティア事業では、読み聞かせやミシン学習補助など多様な活動を通じて、先生方と地域の方々が一緒になって子どもたちを育てる温かい協働の形が定着してきている。地域の力が加わることで教育活動の幅が広がり、学校現場からも高い評価を得ている。
- 「角田市地域学校協働活動ネットワーク会議」を実施し、地域の課題や学校の問題を話し合い、協働教育の取組事例を共有することで、事業の目的や必要性への理解がさらに深まっている。
- 職場体験学習では、市内延べ74事業所の協力のもと中学生210名が参加し、地域ぐるみでキャリア教育を支える体制が充実してきている。



職場体験学習



学校支援ボランティア毛筆補助



地域学校協働活動ネットワーク会議

今後の方向性

- 地域学校協働活動ネットワーク会議等を引き続き実施し、学校と地域の情報共有・連携をさらに深める。
- 学校支援ボランティアによる学校教育活動への支援を継続するとともに、新たなボランティアの確保・育成に努め、活動の持続性を高める。
- 職場体験学習の受入事業所の拡充を図り、キャリア教育の充実につなげる。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

地域で学校を支援する仕組みづくりを促進しながら、子供たちの健やかな成長を支援するとともに、地域住民の生涯学習や自己実現、住民同士の関わりを強化し、地域の教育力向上を図ることを目的としている。また、令和4年度から、地域学校協働本部を設置した。地域学校協働活動推進員を軸として、4つの中学校区において学校支援活動を展開している。学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。

内容

地域学校協働本部の4つの中学校区において、地域学校協働活動推進員を中心に、学校と地域との支援内容の検討や学校支援活動年間計画等の情報交換を行い、支援内容を決定していく。

地域学校協働活動だよりの発行やホームページにより、学校支援活動について、周知する。

ポイント

- ・地域学校協働活動推進員を中学校区ごとに複数人配置することで、学校からの多様なニーズに応えられるようにしている。また、地域のニーズを学校のニーズとマッチングし、地域づくりを進める。
- ・地域学校協働本部と学校運営協議会で連携し、会議等で学校支援活動の事例を紹介することにより、学校と地域の連携・協働の継続を図る。また、学校と地域の団体や住民と緩やかなネットワークづくりを行う。

成果

- ・地域学校協働活動推進員が、学校運営協議会委員に加わることで、連携を取りやすい仕組みができ、学校支援活動につなげることができた。
- ・地域学校協働活動推進員が、学校の状況を理解し、学校のニーズに対して、地域とのつなぎ役となることができた。また、子どもと教員だけでなく、ボランティアの満足度も高く、地域住民の生きがい・やりがいにつなげることができた。
- ・学校支援活動に保護者や地域の団体の参画を促すことにより、学校・地域・保護者の新たな関わりを創出し、子ども達の学びが深まる

今後の方向性

- ・地域学校協働本部と学校運営協議会の双方の機能を理解し、連携を促進し、子どもたちを地域みんなで育てる仕組みづくりと学校を核とした地域づくりを推進していく。



昔遊び 授業支援



裁縫 左利き 授業支援



古代米五平餅づくり業授業支援

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域ぐるみの教育支援」(宮城県登米市)

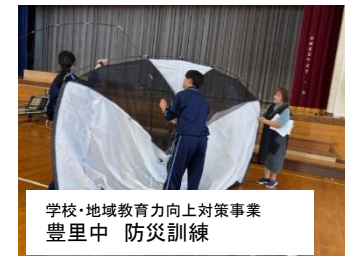
取組の概要や経緯

学校・地域教育力向上対策事業では、旧町域単位に協働教育コーディネーターを配置し、学校と地域ボランティアをつなぐことで地域全体で児童・生徒を育む体制を構築している。

放課後子ども教室では、放課後児童の安全・安心な居場所づくりのため、地域住民の参画を得て実施し、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

内容

- ①学校・地域教育力向上対策事業
地区内の小中学校へ支援ボランティアの派遣や市内10中学校でキャリアセミナーの調整など、地域と学校の連携を円滑にしている。
- ②放課後子ども教室
地域住民の参画を得て、スポーツや文化活動などの体験活動を行っている。



ポイント

- ①統括コーディネーターを中心に協働教育コーディネーターが連携・協力し、教育活動を支援している。
- ②学校の授業にはない体験活動や、異学年及び地域住民との交流を行っている。

成果

- ①登録ボランティアや学校教員を対象に「多様性を尊重して協働しながら子供たちを育てる」を題材としたボランティア研修会を実施した。参加者数は約100名となり、学校支援ボランティア活動が盛んになる中で、子どもの育ちの現状と背景を理解し、皆で共通理解することができた。
- ②地域住民等の参画により、幅広い内容の事業を実施することができ、小学生の豊かな心の発達や育成に寄与した。

今後の方向性

- ①登録ボランティアや学校教員を対象としたボランティア研修会等の開催や学校運営協議会において理解を求めていく。
- ②学校や地域の状況を確認しながら、市内すべての放課後子ども教室において、各年度月1回程度の開催を目指す。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「『地域で子どもを育てる』感覚を醸成する地域学校協働活動」(宮城県大崎市)

取組の概要や経緯

幅広い住民や地域の多様な機関・団体等の参画のもと「地域学校協働活動」の推進を図り、地域全体で未来を担う子ども・青少年を支え、地域の活性化を図る。

内容

- 地域学校協働本部・・・類似組織含め、4つの本部(5小学校・3中学校)の活動を支援
- 学校支援活動・・・コーディネーター配置と保険加入により、安心して活動できる環境を整備
- 放課後子供教室・・・地域の力を生かし、3小学校区で実施
- 地域未来塾・・・家庭での学習習慣定着のため「サマースクール」「放課後学び支援」を開講



ポイント

- 【地域特性】地域の実情に応じた地域学校協働活動の展開
- 【地域の負担】既存団体を生かし、負担感が増大しないよう配慮
- 【地域づくり】地域づくりのひとつの手法として位置付け
- 【人材育成】「地域全体で子どもを育てる機運」とともに、「地域に育ててもらった感覚」を醸成

成果

- 地域学校協働本部の仕組みによる学校支援の拡大
- 地域コーディネーターの配置による支援ニーズへの対応
- 地域未来塾参加者の家庭での学習時間の増加

今後の方向性

- 地域学校協働本部の継続支援と新規設立により、学校・家庭・地域・行政が連携した地域づくりを推進する。
- 学校支援ボランティアの間口を広げ、児童生徒との関わりが地域住民の生きがいとなるよう支援を継続する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「富谷市地域・学校・家庭をつなぐ取組(地域学校協働活動)」(宮城県富谷市)

取組の概要や経緯

「学びのまち富谷」をスローガンに、平成20年から地域全体で子どもを育てる環境づくりに取り組んできました。今では中学校区ごと6つの公民館に地域学校協働本部をつくり、小中学校の支援に取り組んでおります。地区単位で事業に取り組む仕組みがつくられ、それを支えるための実行委員会が教育委員会内に組織されている。上意下達ではなく、各地域に裁量をもたせることで取組に参加している当事者意識をもたせ、形骸化しない取組を長年継続してきた背景がある。

内容

本市の地域学校協働本部は、富谷、富ヶ丘・日吉台、あけの平、東向陽台、成田で設置されており、地域ごとにテーマを設定し活動を展開している。地域コーディネーターが中心となり、学校が行う教育活動やさまざまな地域団体等が実施する地域活動を支援している。各地区の特色を活かして地域の教育力で未来を担う子ども達を育て、参画する地域の方にもこの取組を通して生きがいややりがいを見出していただくことで、持続可能な地域づくりを行っている。



ポイント

- ①地域学校協働本部を公民館に設置(地域資源やノウハウの蓄積を活用)
- ②テーマの設定(各地区の特色をいかした取組を推進)
- ③窓口の明確化(地域コーディネーターと地域連携担当教諭の設置)
- ④双方向での支援体制(地域と学校が一体的に取組を推進)

成果

地域学校協働本部を主軸に地域コーディネーターを通じて、今年度もさまざまな活動が展開された。学校や地域からの依頼を柔軟に受け入れながら活動の幅を広げており、地域・学校・家庭が一体となって子ども達の育成にあたり、市全体でいきいきとしたまちづくりを推進することができた。

また、今年度は各地区で掲げているテーマについて再考する機会を設け、5地区中4地区で新たなテーマを設定し令和8年度からの活動に取り組むこととなった。テーマ設定を通して地域と学校が話し合いをする機会を設けることができた。

今後の方向性

これまでの取組で得た基盤を活かしながら、地区によっては新たなテーマで取組を推進していく。

定例の地域教育協議会や講座等の開催により、地域と学校が話し合える場を創出しながらより良い活動につなげていく。

ボランティアの高齢化などの課題解決を行うため広報掲載や発行物で取組の周知を行うとともに、地区の垣根を越えて取組を推進することで各関係機関が一体となって継続的な取組を行っていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動推進員の配置」(宮城県七ヶ宿町)

取組の概要や経緯

これまでの七ヶ宿町では、地域学校協働活動支援の役割は社会教育主事が担ってきており、地域との連絡調整は学校の教職員が担っていた。教職員や行政職員の異動により、地域とそれまでに築いた関係が薄れ、地域学校協働活動への意識が変容してしまう不安定な状況を打開するため、「地域学校協働活動推進員」を配置し、継続的に地域と学校が支え合える体制づくりを目指す。

内容

- 統括的な地域学校協働活動推進員に地域住民を任命し、配置する。
- 研修や会議に参加し、推進員としての役割に理解を深めながら、総合的な探求の時間を中心に学校支援、地域の課題抽出に取り組む。

ポイント

地域学校協働活動推進員を中心に、まちづくりの視点で地域課題と学校のニーズを掛合せることで、双方向にメリットのある活動として支援することができる。

成果

- 統括的な地域学校協働活動推進員が関わることで、子ども達が地域学習をして考えたアイデアを実践する活動まで繋げることが出来た。
- 会議のスタイルを見直し、地域と学校の意見交換を活発化することが出来た。

今後の方向性

- 地域の活性化に繋がるよう、取組の充実を目指していく。
- 関係機関との連携を図りながら、地域で子供たちのアイデアを実践する場づくりの協力体制を検討していく。



小学校: そば粉のアイディア料理づくり



中学校: 乙女ゆりの保護



保育所～高校生: サツマイモ収穫

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「山元町地域学校協働活動推進事業」(宮城県 山元町)

取組の概要や経緯

「**地域と学校が一体となって山元の子供を育てるネットワーク**」をテーマとして、地域学校協働活動を推進している。

平成30年4月、山元町地域学校協働本部設置要綱、山元町地域学校協働活動コーディネーター設置要綱を施行し、**山元町地域学校協働本部**を設立した。

統括コーディネーター1名、地域コーディネーター3名と生涯学習課が協力・連携しながら事業を推進し、子供たちの育成と地域づくりを目指している。

内容

- **地域学校協働本部の整備** ⇒ 山元町協働教育の円滑な推進を図るために、「地域学校協働本部設置要綱」に基づいた協働本部を設置し、これまでの推進組織を基盤としながら、さらなるネットワークの構築を進める。
- **学校支援活動** ⇒ 学校の教育目標を共有しながら、地域と学校を結び、地域住民の生きがいつくりや、子どもの学びの充実と地域への理解と愛着を深める。
- **地域活動** ⇒ 世代間交流、障害者の生涯学習の推進、次世代リーダー養成、地域教育資源の活用など、あらゆる人が交流し、学び合いながら、豊かな心、社会性、自主自律、自尊感情を育むとともに、地域の担い手の育成や地域づくりを進める。

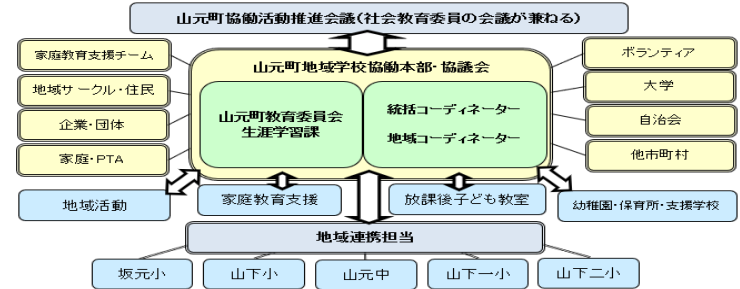
ポイント

- ① コーディネーターが**地域のボランティアとの連絡を密**にするとともに、**学校との連携**に努める。
- ② こどもセンター、教育総務課等、**他課室と連携し**情報共有することで事業の推進に役立てる。
- ③ **生涯学習を通じた人材育成**に努め、**持続可能な活動**を展開する。

成果

- **学校支援活動** ⇒ 地域学校協働本部が組織されていることで、人材探しや活動計画の相談がしやすく、**学校の安心感と負担軽減**につながっている。また、支援に関わる方にとっての生きがいにもつながっている。
- **地域活動** ⇒ 地域の方々や様々な団体と協働することで、あらゆる人が交流する機会が生まれ、**地域コミュニティ形成**の場、**ジュニア・リーダー等の次世代の担い手を育成**する場となっている。

山元町地域学校協働本部 地域と学校が一体となって山元の子供を育てるネットワーク



山元中学校「職場体験学習」

今後の方向性

- 地域の文化・産業・防災など山元町特有の資源を活かした学びを充実させ、**地域づくりと教育の好循環**を促進する。
- 学校運営上の軽作業や支援をボランティア等で請け負い、**教員の本務に集中できる環境整備**に努める。
- **学校運営協議会との連携**を図り、地域学校協働活動を一体的に進めていく。
- 地域活動では、教育振興基本計画の下、**地域の人々が主体的に参加**でき、充足感のある事業の在り方を検討し、実施していく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「元気わくやふれあい町づくり事業」 地域全体で子どもたちの成長を支える (宮城県涌谷町)

取組の概要や経緯

平成22年9月に元気わくやふれあい町づくりサポートセンターを立ち上げ、学校支援本部事業として開始した。支援対象は町内全ての小中学校に展開し、学校支援や放課後子ども教室を地域住民と協働し推進している。平成28年4月から評価検証委員会を立ち上げ、各事業の課題や効果の測定、事業の評価・検証を行っている。

また、令和5年4月には実行委員会の設置要綱も整備し、併せて涌谷町地域学校協働活動推進員の設置要綱も整備している。

内容

放課後子ども教室では、各小学校において、地域学校協働活動推進員が中心となり年10回程度、地域の人材を積極的に活用しながら、様々な体験学習の機会を提供している。学校支援活動では、学校の要請により、学校の授業支援や参観日の見守り、環境整備等を行っている。元気わくやふれあい町づくり実行委員会の地域学校協働活動推進員が学校と地域ボランティアを繋ぎ調整を行い活動を行っている。

ポイント

- ①放課後子ども教室は、各小学校の地域性や特性を活かした体験型の事業内容を企画。また、地域人材を積極的に活用することで地域との連携・協働の推進と地域コミュニティの活性化を図る。
- ②元気わくやふれあい町づくり事業の地域学校協働活動推進員が各学校と密にコミュニケーションをとり、支援内容や支援者の検討を行い速やかに調整し支援している。
- ③町内小中学校を訪問し、各種事業の説明を行い事業の理解、活用、情報の共有を図る。

成果

放課後子ども教室において、多種多様な講師による体験機会を創出したことで、参加児童の興味関心が高まり、何事においてもチャレンジする心が芽生えたとともに、高学年がリーダーシップを発揮し、下学年を補助しながら活動する様子も多く見られました。また、支援スタッフやボランティアと児童の交流も深まっており、地域コミュニティの活性化や生きがいづくりにも大いに役立っていると感じています。

学校支援事業においては、学校からの要請により、授業支援(バケツ稲、調理実習・ミシン・くぎ打ち等)、児童の見守り(参観日などの見守り)や環境整備(図書整理等)、読み聞かせなどさまざまなボランティア支援が行われており、地域のボランティアが児童一人一人にサポートすることにより安全な環境のもとに協働教育の連携が図られています。



今後の方向性

- ・令和8年度から全学校で、コミュニティ・スクールを導入するため、より学校と地域の連携が求められることから、支援者となる地域人材の育成、発掘に努め、協働教育の推進を図る。
- ・『できる支援をできるときに、できることから』を合言葉に地域住民の協力をもらいながら、よりよい協働教育の推進を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域の中に学校を 学校の中に地域を」 美里町地域学校協働活動 (宮城県美里町)

取組の概要や経緯

本町では令和7年度より、美里中学校をコミュニティ・スクールモデル校とし、多くの地域住民が学校を核にして児童・生徒と関わり合える環境づくりを進めている。

令和5年11月に作成した「美里町新中学校の支援と学校を活用した生涯学習について～だれもが学び楽しめる学校を目指して～」にもとづき、町内小中学校における将来的な教育活動の充実と特色ある学校づくりの推進を目指している。



学校運営協議会(生徒との対話)



地域の方々を招いた(給食まつり)

内容

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)で共有されたビジョンを達成するための支援等の具体策を地域学校協働活動に結びつけながら、地域の教育力を生かす取組を展開している。また、地域の方々の学校への関心を高めるために、学校への訪問機会の創出や生徒との対話の機会を設けるなどの取組を行った。

さらに町内小学校へのコミュニティ・スクールの導入も視野に入れ、各地区の地域コーディネーター人材の育成を目的とした研修やワークショップ等を開催した。



学校のためにできることから(環境整備作業)



生徒が地域で活躍(保育ボランティア)

ポイント

- ①美里中学校内に地域学校連携室を設置し、社会教育主事を含む担当職員を配置している。
- ②町の地域プロジェクトマネージャーが連携室に常駐し、地域コーディネーターを兼務している。
- ③連携室を地域や子供をめぐる課題解決のためのプラットフォームとして、「学校を核とした地域づくり」を推進している。

成果

- ・今年度の保護者による学校評価において、「学校は、地域との連携に努めている」についての肯定的な評価の割合が9割を超えるなど、学校と地域による協働体制の理解が図られてきたことが感じられる。
- ・生徒による地域ボランティアの人数は、まだ多くはないが、自律を尊重する学校教育目標の具現化や地域の期待感の高まりにつながっている。
- ・職業講話や授業、行事への協力者が確実に増え、継続的な支援体制につながっている。
- ・地域コーディネーター育成ワークショップの実施は、大学生をはじめ若い世代の人材発掘のきっかけとなった。

今後の方向性

- ・生徒、学校関係者、地域住民のニーズに応じた企画・調整を行い、地域学校協働活動の充実を図る。
- ・コミュニティ・スクール、地域学校協働活動で形成された人脈、関係性を生かした社会教育・生涯学習活動を推進する。
- ・民間や関連団体との連動を図りながら、中学校を拠点とした地域活動の支援を進める。
- ・町内小学校におけるコミュニティ・スクールの導入を図りながら、各学区を結びつけた地域づくりを進める。